



[氏名] 安藤 敏也、1947年生

[現職] 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授

[職歴] 69年北海道大学工学部助手、72年三菱重工業(株)入社、89年三菱重工業(株)横浜製作所システム課長、96年三菱重工業(株)横浜製作所企画経理部長、97年三菱重工業(株)社長室情報システム部長、01年三菱重工業(株)社長室情報システム部長・参与(役員待遇)、04-12年北陸先端科学技術大学院大学遠隔教育研究センター 教授・同センター長、09-11年法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科兼任講師、12年法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科客員教授

[研究歴]

三菱重工業((株)では経営管理システム、CAD/CAM システム、生産ライン自動化、製品搭載システム等製造業における IT 活用全領域での開発運用ならびに研究、工場・全社の IT 戦略立案、工場経営企画・経理管理を経験、この間、カリフォルニア大学へ留学しオペレーションズリサーチを中心に数理計画法・システム工学を研究し Ph.D.を取得。北陸先端科学技術大学院大学では遠隔教育システムに関するシステム構築および大学院教育への実践適用研究を推進、ならびに IT 技術の効果的且つ体系的活用方法・e-Learning 技術の活用方法を研究。また企業での IT 活用に関して、「IT 戦略立案方法論」や「学習する組織」への改革コンサルテーションを通じて、IT 戦略と経営戦略の融合を研究。

[社会的活動]

応用数学会国際関係委員(94年)、草の根 e ラーニング・システム開発委員(06-07年)、工科系大学連携協議会運営委員(04年~11年)、北陸地区国立大学連合学生教育系専門委員(04年~12年)

[所属団体] 教育システム情報学会、日本 e-Learning 学会

[資格] 特種情報処理技術者、システム監査技術者

[学歴] 69年東京大学工学部計数工学科(学士)、72年東京大学大学院計数工学専門課程(修士)、82年カリフォルニア大学バークレイ校工学部(M.S. & Ph.D. Candidate)、89年カリフォルニア大学バークレイ校工学部(Ph.D.)

[研究業績・社会活動等報告書]

1. 研究業績（発表論文名、著書名、講演等）

- (1) 長谷川忍, 児島雄志, 安藤敏也: “遠隔教育デザインパターン構築支援システムの開発”, 人工知能学会 ALST 研究会, (2010)
- (2) S. Hasegawa, Y. Tajima, M. Matou, K. Miyashita, & T. Ando: “ A Framework of Design Pattern for Distance Education System” , The IX World Conference on Computers in Education(WCCE2009), Brazil, (2009) [査読あり]
- (3) 安藤敏也: ” I T 経営を実現する技術者になろう”, IBM ISE Technical Conference 2009 基調講演, (2009) [招待講演]
- (4) 長谷川忍, 但馬陽一, 間藤真人, 宮下和子, 安藤敏也: ” 遠隔教育システム設計のためのデザインパターン”, 電子情報通信学会教育工学研究会, (2008)
- (5) T. Ando et al. : ” Distance and Electronic Learning” , Chapter 13 of “Creative Environments” : Studies in Computer Intelligence(SCI) 59, 321-350(2007), Springer. [執筆共著]
- (6) 長谷川忍, 間藤真人, 但馬陽一, 安藤敏也: “講義アーカイブを活用した学習支援機能”, 人工知能学会先進的学習科学と工学研究会, 東京, (2007)
- (7) S. Hasegawa, Y. Tajima, M. Matou, M. Futatsudera, & T. Ando: “Case Studies for Self-directed Learning Environment Using Lecture Archives” , Proc. of The Sixth IASTED International Conference on Web-based Education(WBE 2007), pp.299-304,(2007). [査読あり]
- (8) T. Ando: “Recent Trends of Applying e-Learning to Educational Organizations and Business Organizations” , Keynote Speech at APEC Symposium on Open Source and Open Course for e-Learning, (2006) [招待講演]
- (9) 長谷川忍, 但馬陽一, ニツ寺政友, 安藤敏也: “多様なメディアを利用した同期型遠隔講義環境の構築・実践”, メディア教育研究, Vol.2, No.2, pp.79-91, (2006). [査読あり]
- (10) 安藤敏也: “空間、時間を超えて学習機会を提供”, 北陸先端科学技術大学院大学支援財団 ADVANCED Vol.17, pp.13-14, (2006) [雑誌投稿]
- (11) 長谷川忍, 但馬陽一, ニツ寺政友, 安藤敏也, 丹康雄: “情報通信技術を活用したリアルタイム双方向遠隔講義の実践”, 教育システム情報学会 ICT を利用した優秀教育実践コンテスト発表会講演論文集, pp.39-42 (2005). [査読あり]
- (12) 安藤敏也: “北陸先端大における遠隔教育への実践的取り組みと課題”, 「IT を使った教育開発 COL イニシヤティブ」研究会、平成15年度採択東京大学特色 GP、東京大学、(2005). [招待講演]

- (13) 長谷川忍, 但馬陽一, ニツ寺政友, 安藤敏也: “北陸地区遠隔授業システムを利用した遠隔講義の実践”, 教育システム情報学会研究報告 Vol.20 No.4 pp.21-26 (2005).
- (14) Toshiya Ando: “An Extension of Levenberg-Marquardt Method for Unconstrained Optimization”, Ph.D. dissertation, University of California at Berkeley, (1989)  
[Ph.D.学位論文]
- (15) 安藤敏也: “工学力学系の幾何学的研究”, (1972) [東京大学修士論文]
- (16) 安藤敏也: “塑性の幾何学”, (1969) [東京大学学士論文]

## 2. 実務業績

### (1) 製造業 IT 活用実務

- ・ 1972-1982: 有限要素法等技術計算、CAD/CAM システム開発、工場生産ライン自動化システム
- ・ 1982-1992: 工場 CIM (computer integrated manufacturing) 構築、経営管理オンラインシステム
- ・ 1997-2002: (三菱重工業株式会社全社システム統括責任者 CIO) 全社 IT 戦略策定、全社コンピュータ統合、全社ネットワーク統合、全社アプリケーション統合、グループウェア統合を実施。

### (2) 工場経営企画並びに経理

- ・ 1992-1997: 売上高 2000 億円規模の工場の企画経理部長、部長室メンバとして経営企画、経理の統制により、好業績を実現。また経営戦略と IT 戦略との融合を提唱し実践。

## 3. 企画提案型事業推進ならびに企業コンサルティング等

### (1) 遠隔教育、e-learning の高等教育機関並びに民間企業での利活用関連

- ・ 特別教育研究経費、平成 16 年度、“北陸地区国立大学連合双方向遠隔授業システム”, 研究代表者、189,336 千円。(北陸地区国立大学間での双方向遠隔授業を可能と知る大教室 1、小教室 2 を設置し、大学間並びに東京サテライトキャンパス間との遠隔講義を展開。)
- ・ 特別教育研究経費、平成 17 年度～平成 19 年度、“高等教育機関における単位互換や社会人教育、地域社会貢献への e-ラーニング活用による推進”, 研究代表者、32,400 千円。(13 国立教育機関による「高等教育 IT 活用推進事業」(平成 14, 15 年度実施)の成果を下に電子教材の充実、単位互換協定による遠隔教育の推進。)
- ・ 民間からの受託研究費、平成 17 年度、“e-ラーニングにおける技術動向とその事業化に関する研究”, 研究代表者、1,538 千円。(民間企業内での e-ラーニング技術研究の指導ならびに事業化へのコンサルティング。)

## (2) I T経営に関わる企業コンサルティング活動関連

民間企業での経営管理並びに情報システム推進の経験に基づき（経営とI Tが分かる立場並びにアカデミックなシステム論と企業論理のわかる立場）、各社のI T経営への取り組みのコンサルティングを実施（民間からの奨学寄附金、平成16年度～平成23年度、延べ14社。）

### <活動テーマ例>

#### ・企業基幹システムへのパッケージソフトウェアの適用

最近ではERPパッケージ利用が進んでいるが、出来合いのパッケージシステムなら開発は簡単だろうという判断から大きくずれた事例も多い。基本的考え方として業務改革、業務見直しの視点を明確にし、自社のシステム利活用方針を打ち立てることを徹底的に指導。

#### ・I Tプロジェクトマネジメントの実質化

PMBOKなど欧米流の標準化が定石化してきたが、欧米流のドキュメント文化・契約文化をベースにした標準を形式的に適用するだけでは日本の企業において成果を実現することが難しく、現場・現実を踏まえた実質化を指導。

#### ・企業基幹システムとWEB2.0の連携

基幹業務系のシステムには企業の活動の生データが蓄積されているが、定形業務システムとしての適用に留まっている企業も多い。フレキシブルなWEBとの連携による企業活動データの分析・再活用・顧客対応力改善などを指導。

#### ・真に使えるe-learningシステムの開発

民間企業では教育の重要性は語られるが、現実の場では売り上げに直結する活動が優先されることが多い。企業が継続的に学習する組織として進化していく枠組みを定め、ITを活用したe-learning技術を活用した実践ノウハウを指導。

#### ・「学習する組織」に進化していくI T技術者集団作り

日本の企業では定形業務に対する教育はなされるものの、非定形業務やノウハウにかかる教育は自己啓発や個人人間関係に任されることが多い。IT技術の進展速度が非常に早く、継続的な教育、エキスパート化の方法論を指導。

#### ・I T経営教科書を活用したI T経営戦略の策定

ITを利活用した企業経営が叫ばれて久しいが、経営戦略とITの活用が必ずしも融合・連動していないために、企業経営の核心でのIT活用が実現できずにいる企業が少なくない。21世紀に入り日本政府もIT経営を標榜し、IT経営教科書等による普及策をとっている。それらの成果を活用してIT経営戦略の策定を指導。